

企業行動憲章

イーグル工業株式会社およびそのグループ会社は、次の経営理念のもと、単に公正な競争を通じた付加価値創出により経済社会の発展を担うだけでなく、すべての利害関係者、いわゆるステークホルダーに誇りをもってもらい、ともに夢を追い続けることのできる経営を以下の経営方針で推進し、広く社会にとって有用な存在であることをめざします。その実現のために、以下の10原則に基づき、国の内外において、人権を尊重し、関係法令・国際ルールおよびその精神を順守しつつ、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていきます。

経営理念

1. 愛情と信頼に基づく人間尊重経営
2. 派閥の無い強固な団結による風通しのよい経営
3. 超常識の努力を惜しまない逆境に強い経営
4. 常に夢を求める計画経営

経営方針

1. 経営資源を重点分野に集中させ、より強く、より独自性に富んだ部品メーカーになること
2. 営業第一線から製造現場まで、コスト削減を徹底し、収益体質をより強固なものとする
3. 品質向上のための研究を重ね、技術に裏打ちされた独自性のある、かつ社会に有用な商品を生産・販売すること

企業行動原則

1. 社会的に有用な商品の提供

私たちは、社会に有用で安全な商品を開発・提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得します。

2. 公正・適正な取引

私たちは、商品の販売、材料等の購入においては、公正で透明かつ自由な競争ならびに適正な取引を行います。また、政治・行政との健全かつ正常な関係を保ちます。

3. 適正な情報の開示と管理

私たちは、正確な企業情報を、適時・適切に開示します。また、個人情報・顧客情報ははじめとする各種情報ならびに知的財産権の保護・管理を徹底します。

4. 反社会的勢力との関係遮断

私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体に対しては、毅然とした姿勢で対処し、関係遮断を徹底します。

5. 環境保全の取り組み

私たちは、環境問題への取り組みは企業の存在と活動に必須の要件として、主体的に行動します。

6. 社会貢献活動の実践

私たちは、「良き企業市民」として、積極的に地域社会活動等を実践します。

7. 国際社会との調和

私たちは、国際的に事業活動を行う企業として、事業展開する国・地域の法律の順守、人権を含む各種の国際規範の尊重はもとより、文化や慣習、ステークホルダーの関心に配慮した経営を行い、各国・地域の経済社会発展に貢献します。

8. 人権の尊重と安全で働きやすい職場環境の確保

私たちは、社員の多様性・人格・個性を互いに尊重し、公私のけじめをつけ、公正な職場秩序の維持を図り、清潔かつ安全な職場環境を実現します。

9. 役員の責任

役員は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、EKKグループ全体に周知徹底するとともに、取引先にも同様の取り組みを働きかけます。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

10. 問題発生時の対応

本憲章に反するような事態が発生したときには、役員は自ら問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上で自らを含めて厳正な処分を行います。

大きな地球を守る、 確かな技術

EKKグループが世界に誇る、シール精密技術。

その高度な技術から生まれるさまざまな製品は、

エンジンやプラント、産業機械の

安全運転を支えるだけでなく、

機器内部から油、溶剤、冷媒等の

漏れを防ぎ、地球環境の汚染防止に

大きく貢献しています。

過酷な環境で、 究極のクリーンエンジンを支える

EKKは、液体燃料ロケットエンジンのターボポンプシールを供給できる唯一の日本メーカーです。これまでに日本のロケット開発の黎明期から現在のH-IIA/Bまで、全てに関わってきました。日本のロケットエンジンは液体水素と液体酸素を燃料とするため水蒸気しか排出しない究極のクリーンエンジンです。その心臓とも言えるターボポンプは、高圧高速の下で極低温と高温が同居する過酷な環境にあって、水素と酸素の接触を完璧に防がねばなりません。このEKKシールシステムの技術力は、世界的にも高く評価されており、米国の次期基幹ロケットのエンジンターボポンプ用への開発など、活躍の場が世界に広がっています。



燃焼試験スタンドにセットされたLE-9エンジン

次期基幹ロケットH3の1段目エンジンLE-9が開発中であり、EKKのターボポンプシールが搭載されています。

CONTENTS

02		企業行動憲章 経営理念 経営方針 企業行動原則	EKKグループが社会と共生し、持続的に発展していくための「企業としてのあり方」を提示しています。
03		EKKグループのCSRビジョン 大きな地球を守る、 確かな技術	機器の安定運転を支えるだけでなく、機器内部の油、溶剤、冷媒等の漏れを防ぎ、地球環境の汚染防止に貢献するEKK製品。今回は、液体燃料ロケットエンジンの心臓部を支えるターボポンプシールにフォーカスしました。
06		トップメッセージ	全てのステークホルダーが誇りを持てる会社であり続け、「より良い社会」の実現に貢献していく、EKKグループのCSRの考え方を語ります。
08		くらしと社会を支える EKKグループ	社会のさまざまなところで使われ、世界中の人々のくらしや幅広い産業分野を支える、EKKグループ製品を紹介しています。
10		特集 インベーションの最先端へ 「夢のメカニカルシール技術」 を世界に先駆けて提案	社会のニーズに応え、さまざまな分野への技術革新、省エネルギー・省資源へとつながる表面テクスチャリング技術を紹介しています。
12		環境報告 環境マネジメント	EKKグループは、地球環境保護に貢献するため、グループ共通の環境方針を制定し、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを運用しています。
14		環境報告 環境保全活動	EKKグループの環境に関する重要課題に基づいた中長期的な環境保全活動の取り組みを紹介しています。

編集方針

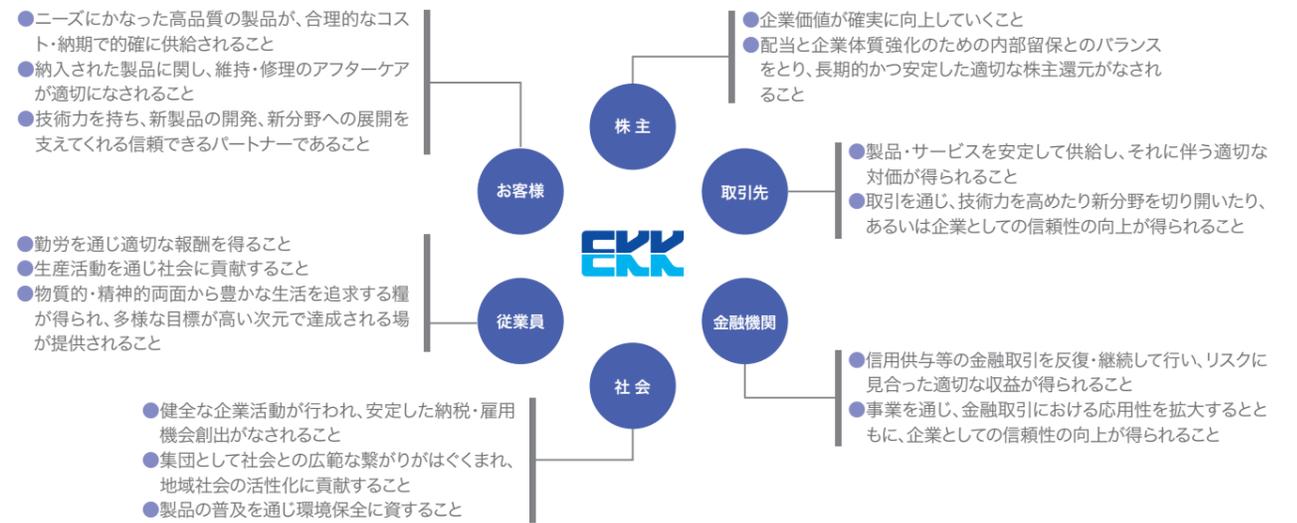
本報告書は、EKKグループが果たすべきCSR(企業の社会的責任)に関する考え方や活動をステークホルダーの皆様にはわかりやすくお伝えし、ご理解いただくためのものです。多くの方々の情報ニーズにお応えできるよう、毎年、冊子版とWEB版を発行しています。

 <p>●WEB版 本報告書。冊子版の内容に、詳細な環境報告、各ステークホルダーへの取り組み、CSRマネジメント情報を加えた冊子形式PDF</p>	 <p>●冊子版 ステークホルダーの皆様に関心が高いと思われるCSR情報に絞って掲載したダイジェスト版</p>	 <p>●CSRサイト 「環境方針」「リスクマネジメント方針」「EKK従業員コンプライアンス行動指針」「安全衛生方針」「グリーン調達ガイドライン」等、冊子版、WEB版を補完する各種情報を掲載</p>
--	--	---

報告対象期間 2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日)の実績が中心ですが、2017年度の取り組みを一部含んでいます。
報告対象組織 イーグル工業株式会社、イーグルブルグマンジャパン株式会社、岡山イーグル株式会社、島根イーグル株式会社、広島イーグル株式会社、イーグルサービス株式会社、イーグルハイキャスト株式会社、北海道イーグル株式会社、株式会社バルコム
報告書発行日 2017年7月31日
参考にしたガイドライン 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」、GRI「サステナビリティ・レポートガイドライン第3.1版」
CSR報告書に関するお問い合わせ イーグル工業株式会社 業務本部 総務部 総務課
 TEL 03-3432-3892 FAX 03-3432-5448 〒105-8587 東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビル
 URL <https://www.ekeagle.com/jp/>

18		社会性報告 品質への取り組み	「永遠のゼロ」という信念のもと、品質のあり方、品質向上を求め続ける2016年度の取り組みを紹介しています。
19		社会性報告 安全衛生・健康増進への 取り組み	従業員のために安全で健康的な職場環境を維持していくことは、企業としての重要な責務であると考えています。
20		社会性報告 地域とともに	地域に信頼される企業市民であることを目指しています。地域社会とのコミュニケーションを深めるための取り組みを紹介しています。
21		社会性報告 お客様・お取引先様とともに	お客様視点に立った製品・サービスをお届けするため、お取引先様とのパートナーシップを通じた信頼される品質づくりへの取り組みを紹介しています。
22		経営体制 CSRマネジメント	公正で効率的な経営システムを構築し、誠実な運営に努めています。経営の透明性を重視したコーポレートガバナンス体制、リスクを適切に管理する体制を紹介し、中期経営計画の進捗状況も報告しています。
26		EKKグループ 海外での取り組み	EKKグループでは、海外の各拠点においてもCSR活動を推進しています。その取り組みの一部を紹介しています。
26		日本と世界に広がる EKKグループ	国内主要拠点とグループ会社、および世界各国に展開する主要グループ会社を掲載しています。

ステークホルダーとのかかわり



全てのステークホルダーが 誇りを持てる会社であり続け、 「より良い社会」の実現に貢献していきます。

イーグル工業株式会社
代表取締役社長

鶴 鉄二

世界中の産業にとって、 なくてはならない存在であるために

当社は、東京オリンピックの開催された1964年にNOK株式会社の子会社として、メカニカルシールを製造販売することを目的として設立され、メカニカルシールの生産や各種サービスの提供を通じて、日本をはじめ世界各国に子会社・関連会社100社以上を有するグローバル&パブリックカンパニーに成長してまいりました。

私たちが目指している姿は、各種産業における風水力製品の軸封(シール)装置に関するソリューションプロバイダーとして、全てのステークホルダーにとってなくてはならない存在価値を持つ、中堅優良企業、グローバル・インテグラル・カンパニーたることであります。そして、事業展開において、当社は「企業は、株主、従業員及び社会の共有物である」という考え方を全面的に経営の端々にまで展開しています。

各種法令の順守を何よりも優先するコンプライアンスの徹底、環境保護の立場での環境経営の展開、環境保全への積極的貢献、労働安全面に対する徹底管理、製品の品質向上への取り組みなどの活動は事業上の最優先事項です。これらの考え方の徹底と実践が、社会において良き企業市民として存在し、従業員の会社への誇りと仕事に対する真摯な姿勢を育み、より質の高い仕事を通じてお客様の信頼を確保し、最終的に企業の最大の目標である適正利益の確保につながっていくと考えます。

長期的利益の犠牲のもとに短期的利益は追求せず、い

くら儲かるからといって、環境を破壊する恐れがあったり、品質の確保や供給責任を果たせない製品・サービスの提供は行いません。経営者が代わろうとも、従業員が移り変わってもいつまでも全てのステークホルダーが誇りを持てる会社であり続け、良い会社であり続けることで、より良い社会の実現のために貢献することができる、これが当社グループの願いであり、CSRに関する考え方で。

「持続性ある企業体質の構築」を 目指して ~Fly Sky High~

2017年度より新たに3カ年計画がスタートしました。既存商品のプロダクト・ライフ・サイクルが回り続けいつか終焉を迎える前に、トライボロジーの考え方の追及による、省エネルギー、省資源に貢献できるゼロトルク、ゼロリークの製品を目指すなど、“技術に裏打ちされた、独自性のある、かつ、社会にとって有用な商品”をMGPP手法を駆使して産み出していきます。フォーカスする分野は次世代の自動車等モビリティやエネルギー、そして環境対応関連商品です。

品質に関しては、既存品と新商品とに関わらず、不適合品を1個たりとも世の中に出さないというEKKグループに働く全員のグローバルな誓い“永遠のゼロ”は、グローバル中堅優良長寿企業として輝き続けていくための、絶対必要条件であり、3カ年期間中にこのEternal Zero DNAを世界

中のEKKグループカンパニー全員で共有していきます。

BCM(Business Continuity Management)については、近年、大地震、津波、ゲリラ豪雨、土砂崩れ、大型台風、豪雪、火山噴火といった気候変動をはじめとする自然環境の変化が、地球、とりわけ日本列島を直撃していることから、特にグローバル・マーケット・シェアの高い品目の多いEKKとしては、企業の社会的責任の観点からも徹底したBCM定着が急務と考えています。

「人間尊重経営の実践」ですが、「全てのステークホルダーに利益と誇りをもたらす(Profit and Pride for All Stakeholders)」という企業理念を成就するためには、「企業の目標は従業員とその家族を幸せにすることにある」といういわばEmployee Satisfactionの最大化が自らそれを成就させることを思い起こして、全ての従業員がその能力を出し切ることのできる働き甲斐のある企業体、そして、活躍したい女性、活躍したい高齢者、活躍したいマイノリティーが活躍できる企業体をつくり上げていきます。

「CSR報告書2017」はステークホルダーの皆様に対し、EKKグループの環境保全・安全衛生活動への取り組み、品質の向上および社会的な活動に対する考え方や実績を紹介させていただいております。

皆様の忌憚りの無いご意見・ご感想をいただければ幸いです。

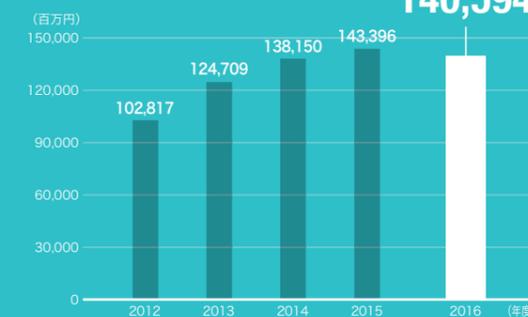
会社概要

(2017年3月31日現在)

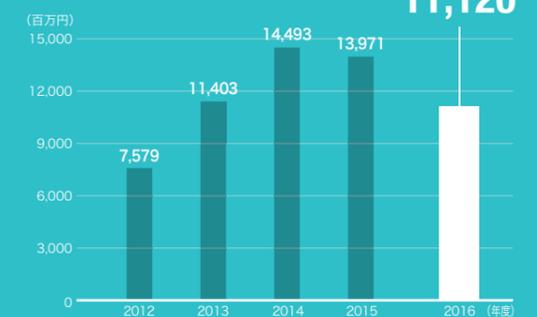
商号 イーグル工業株式会社
本社所在地 〒105-8587
東京都港区芝公園2丁目4番1号
芝パークビル
代表者 代表取締役社長 鶴 鉄二

設立 1964年10月1日
資本金 10,490,981,500円
決算期 3月31日
従業員数 連結 6,070名

連結売上高



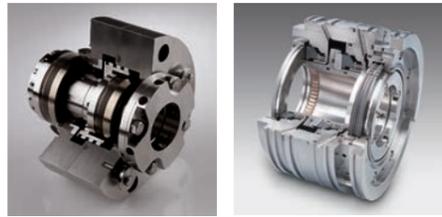
連結営業利益



くらしと社会を支えるEKKグループ

1 石油化学、鉄鋼、医薬、水、紙、食品

石油化学等の装置産業で大型コンプレッサーに使われるドライガスシール、工業用大型ポンプやプロセスポンプに使われるメカニカルシール、あらゆるケミカル分野で有効な攪拌機用シールユニット等をはじめとして、多様な製品群をそろえています。



API682 メタルベローズシール ドライガスシール

2 半導体製造

半導体製造装置やフラットディスプレイ製造装置の真空シールに使われる磁性流体シール、シリコンウェハを研磨する化学研磨機やラッピング装置等に使われるロータリージョイント、溶接金属ベローズ等があります。



溶接金属ベローズ 磁性流体シール

3 自動車、建設機械

カーエアコンやウォーターポンプのシール、エンジン等各種装置のソレノイドバルブ、二輪車等の排ガス対策用リードバルブ、建設機械や農業機械等の足回りに使われるフローティングシールや油圧回路に使われるアキュムレータ等、多彩な製品を安定的にお届けしています。



自動車用バルブ製品

建設機械用フローティングシール

建設機械用アキュムレータ

ウォーターポンプ用コンパクトメカニカルシール

4 住宅設備

家庭用の温水洗浄便座、家庭用燃料電池、ヒートポンプ式給湯機などに使われる各種バルブ、井戸水ポンプやビル・マンション向け給水システムに使われるアキュムレータ等を提供し、皆様の快適で健康的な生活をサポートしています。

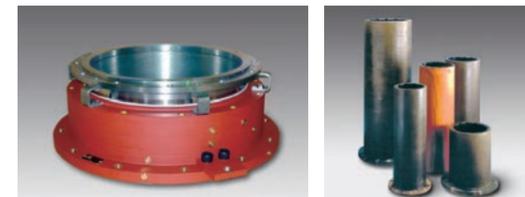


温水洗浄便座用バルブ

住宅設備用アキュムレータ

7 船舶

プロペラシャフトに装着されて潤滑油の漏洩や海水の浸入を防ぐ船尾管シール装置、船尾管軸受等を提供しています。空気を利用して油漏れを完全に抑えた無公害の船尾管エアシールも多くの船舶に採用されています。



油潤滑用船尾管シール

水潤滑用ゴム軸受

6 エネルギー

各種発電プラントのポンプや発電機用のシールの他、高温・高圧の条件で使用できる各種シールを提供しています。さらに、特殊バルブは多くの発電所に、またダイアフラムカップリングは主に発電装置やLNG船の推進軸にそれぞれ採用されています。



ノーコンタクトシール

ダイアフラムカップリング



主蒸気隔離弁

8 その他

圧力センサ、ロードセル、デジタルコントローラなどを多様な業界(自動車・ゴム・半導体・水処理・産業機械・電池関連・食品・飲料水・医薬品等)の設備装置に採用され、品質・生産性向上、省エネに貢献しています。



産業用カメラ

球形デジタル表示器



EKKグループは、シール技術、特殊溶接技術、動力伝達技術、バルブ技術を大きな柱に、各種メカニカルシール、特殊バルブ、船舶用製品、航空宇宙用製品、ベローズ関連製品、ダイアフラムカップリング等をお届けしています。これらの製品は自動車、船舶、各種プラント、航空機やロケット等になくはない存在として広く利用され、世界中の人々のくらしや産業分野で貢献しています。

「夢のメカニカルシール技術」を 世界に先駆けて提案

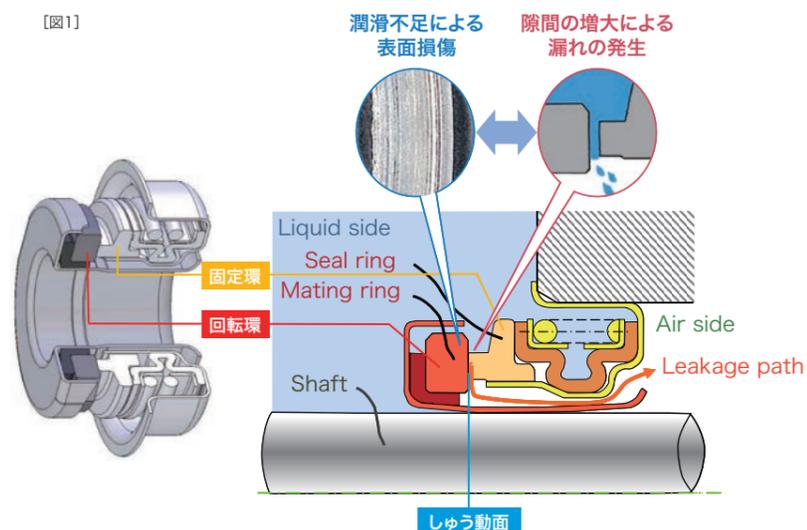
EKKグループの主力製品の一つであり、自動車をはじめ、航空宇宙分野や一般産業機械分野において、世界中で広く採用されているメカニカルシール。要求される性能は年々厳しくなり、また、環境配慮も求められています。そのような社会のニーズに応え、さまざまな分野への技術革新、省エネルギー・省資源へとつながる表面テクスチャリング技術を紹介します。

メカニカルシールとは？

メカニカルシールは、ポンプやコンプレッサー等の回転機械の動力を伝える軸部分(シャフト)に設置されるパッキン部品の一種です。自動車、船舶、ロケット、産業プラント用設備から住宅用設備まで、さまざまな場面で使用されています。役割は、水や油等の液体やガス等の気体を機械の外部(大気中・水中等)へ出さないための漏れ止めです。

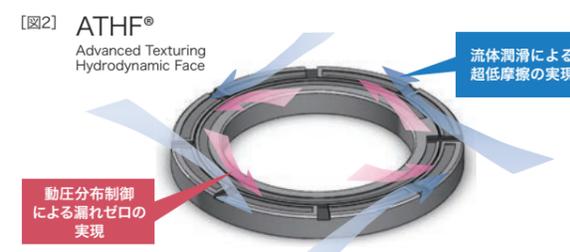
メカニカルシールの課題

「しゅう動面」は固定環・回転環が擦り合わさる面であり、液体等を止める、もっとも重要な部位です。隙間が狭すぎると潤滑不足が発生し、摩擦による摩耗でシールの寿命が短くなります。逆に隙間が大きすぎると液体を漏らすことになります。密封と潤滑の機能を両立させることが、メカニカルシールにとっての重要な課題です(図1)。



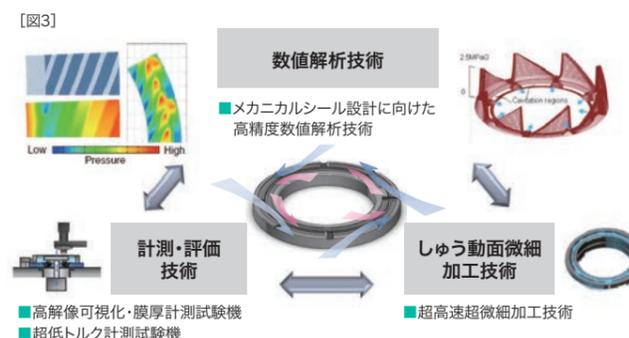
表面テクスチャリング技術とは？

表面テクスチャリングとは、しゅう動面上に加工された数ミクロンレベルの微細な凹凸のことです。微細加工によって、しゅう動面の液体等の流動を利用して、しゅう動面間に流体圧力を発生させ、潤滑作用を生み出します。



漏れゼロと極低摩擦を実現できる表面テクスチャシール

図2は表面テクスチャシールの一例です。内周と外周の凹凸パターンを変え、漏れゼロと極低摩擦を実現する構造となっています。EKKでは、「数値解析に基づく設計」と「加工」、そして「機能検証」までを社内で一貫して実施できる開発環境を整備しています(図3)。このような世界最先端の数値解析技術、微細加工技術、機能検証技術を備えた環境のもと、日々研究開発に取り組んでいます。



表面テクスチャリング技術による社会貢献

表面テクスチャシールは、「漏れゼロ」、「極低摩擦」、さらに「メンテナンスフリー」を実現できる技術です。この技術の実現により、シールの長寿命化、システムの簡素化が可能になります。

この技術の普及により、自動車、航空宇宙や一般産業機械等の各分野への技術革新、および省エネルギー・省資源等、最先端のシール技術を通じて環境への貢献を果たしています。

相反転プロペラ式潮流発電機用テクスチャシールの実用例

再生可能な潮流のエネルギーで発電を行う相反転プロペラ式潮流発電機用としてテクスチャシールに期待が掛かっています。これに利用されるメカニカルシールは、潮流の流れ方向が変わるため、両方向に回転する必要があり、このような条件下でも、極低摩擦かつ漏れゼロを実現できるテクスチャシールを開発しました。現在は、実験段階ではありますが、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託事業として開発を担っており、今後の自然エネルギー利用拡大に貢献していきます。



Environmental Report

環境報告

環境マネジメント

EKKグループは、地球環境保護に貢献するため、グループ共通の環境方針を制定し、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを運用しています。

EKKでは2001年にEKKグループの環境方針を制定し、環境保全活動に取り組んできました。

地球環境により貢献できる企業でありたいと考え、昨今の地球環境問題の変化に合わせて、2017年4月1日に環境方針を改訂しました。

環境方針

基本理念 イーグル工業株式会社及びそのグループ会社は、企業が社会の一員であること、及び私達が生産するシール・機器製品等は公害防止・省エネルギー等、環境保護に寄与する製品であることを踏まえ、事業の活動、製品及びサービスが地球規模での環境影響に深く関わりを持つことを自覚し、コンプライアンス（順法の精神）を活動の原点とし、自主的・継続的に地球環境の保全に取り組みます。

- 行動指針**
1. 製品の開発にあたっては、環境影響に配慮します。
 2. ライフサイクルの視点を考慮し、省資源・省エネルギー・温室効果ガス削減に努めます。
 3. 廃棄物の低減と、持続可能な資源の利用のため再資源化に努めます。
 4. 生物多様性を考慮した環境影響の継続的改善及び汚染の予防に努めます。
 5. 法規制及び同意するその他の要求事項を順守します。
(その他の要求事項とは、例えば「加入している工業会の環境指針」等をいいます。)
 6. マネジメントレビューを通して環境目的・目標を設定し、適切な頻度で見直し、環境パフォーマンスの継続的向上を図ります。

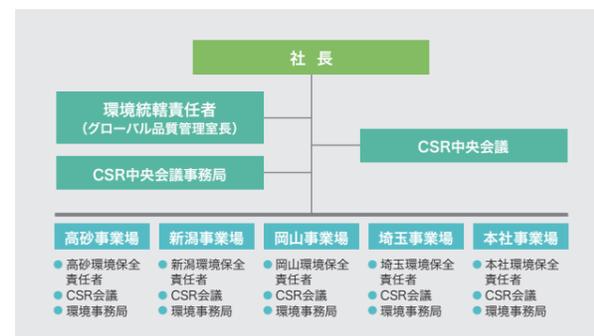
2017年4月1日改訂

環境マネジメント体制

EKKグループは、全社規模の環境マネジメント体制を整えています。体制の中心となるのは、社長を議長とし各事業場の環境保全責任者で構成される「CSR中央会議」です。ここで決定された目的・目標のさまざまな取り組みが環境統轄責任者によって各事業場に展開されます。

また、各事業場の環境保全責任者を議長とする「事業場CSR会議」が置かれ、ここで確認された各事業場の取り組みは「CSR中央会議」で報告され、経営層によるマネジメントレビューが実施されます。

■環境マネジメント体制



My CSR



イーグルサービス(株)
工事部 岡山事務所
遠藤 昭一

当社では、EKK製作で納入された原子力用・火力用・化学プラント用等のバルブメンテナンス事業を行っています。顧客開催による作業前の事前教育で指導された安全・環境両面の日常的な注意喚起、設備内での順守事項に従い環境安全を実施しています。

ISO14001:2004取得状況

企業	取得状況
イーグル工業(株)	維持
イーグルブルグマンジャパン(株)	維持
イーグル・エンジニアリング・エアロスペース(株)	維持
岡山イーグル(株)	維持
島根イーグル(株)	維持
広島イーグル(株)	維持
北海道イーグル(株)	維持
イーグルサービス(株) 本社及び岡山事務所	維持

※2017年7月31日時点



環境法規制の順守状況

毎年、EKKグループに適用される環境法規制を特定し、半期ごとにその順守状況を確認しています。

2016年度は258項目の法規制が適用され、全ての項目について違反はありませんでした。

EKKグループに適用される主な環境法規制	2016年度の順守状況
エネルギーの使用の合理化等に関する法律 (省エネルギー法)	順守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	順守
大気汚染防止法	順守
騒音規制法	順守
振動規制法	順守
水質汚濁防止法	順守
土壌汚染対策法	順守

内部監査

環境マネジメントシステムが有効に運用されているかを確認するため、毎年、全ての部署を対象に内部監査を行っています。2017年度は、ISO14001:2015に対応した内部監査員教育を実施します。

環境教育

EKKグループで働く従業員全員を対象に、環境の認識教育を行っています。環境の専門知識がなくても理解しやすいよう、オリジナルのテキストを作成し、ISO14001の概念、EKKグループの環境目的・目標等を解説しています。

緊急事態対応訓練

事故や災害が発生した際に、環境汚染を防止・緩和するため、緊急時の対応手順を定め、定期的に緊急事態対応訓練を行っています。訓練の結果を踏まえて、対応手順に問題がないかを見直して、緊急時に万全の対応ができるよう備えています。



My CSR



(株)バルコム
技術部技術課 主任
原谷 珠希

部署全体で環境保全につながる製品の小型化推進を通じて貢献しています。私自身も、構成部品に使用されている材質や物質が各種環境規則に適合しているかを常に確認し、「知ること」から環境負荷低減を目指しています。

環境報告

環境保全活動

EKKグループでは、自らの事業活動、製品およびサービスが、地球規模での環境影響に深い関わりを持つことを自覚し、自主的・継続的に地球環境の保全に取り組んでいます。

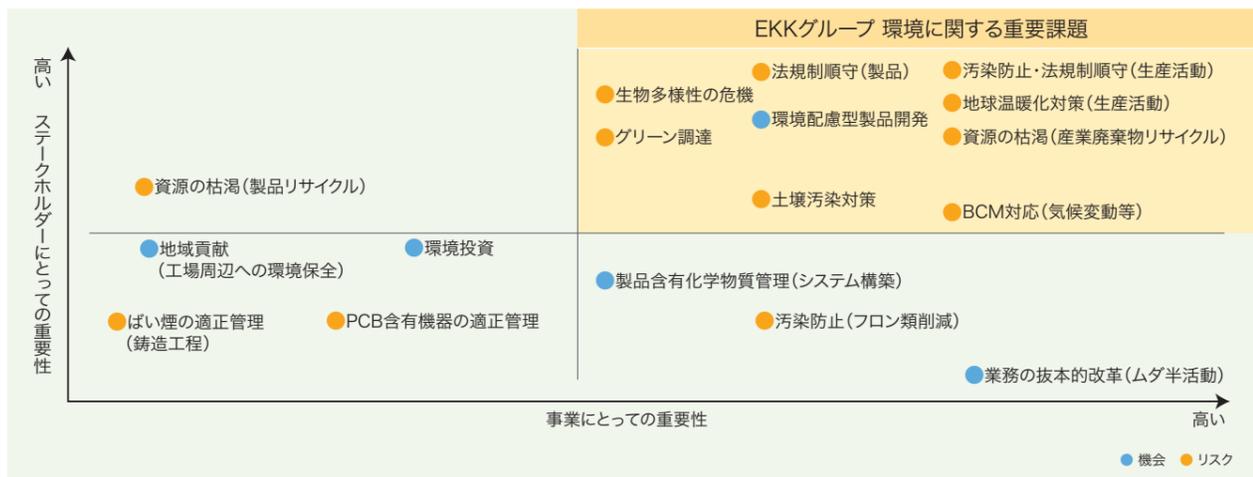
環境に関する重要課題の分析

EKKグループでは、ステークホルダーの皆様の意見や期待の把握に努め、環境保全に関する課題をリスクと機会に分けて

分析し、ステークホルダーと事業の双方にとって重要度の高い課題に取り組んでいます。

■2017年度 重要課題の分析

※下図内、各項目の重要性は、EKKのトップ方針・経営計画に基づいて推進している環境活動の状況を分析し、環境に関する最新の情報(業界団体の情報・調査機関による分析等)を考慮し設定



重要課題に基づいた中長期的な環境保全活動の取り組み

EKKグループは、中長期的な観点で環境保全活動に取り組んでいきます。

パフォーマンスの実態の見える化を進めます。そして、顕在化した課題に対して改善活動をより活性化させ、具体的な中長期目標値を設定し、環境パフォーマンスの向上に取り組んでいきます。

まず、エネルギー使用量、産業廃棄物、水資源の使用等、環境

■中長期的な環境保全活動の流れ



EU(欧州連合)の環境規制への対応

EUは、使用済自動車や、廃電気・電子機器が環境に与える負荷を低減するため、ELV指令(廃自動車指令)、RoHS指令(電気電子機器における特定有害物質使用制限)を制定しています。ELV指令では鉛、水銀、カドミウム、六価クロムを、RoHS指令ではこれら4物質に加えて臭素系難燃剤2物質

(PBB、PBDE)、フタル酸エステル類4物質(DEHP、BBP、DBP、DIBP)の使用を禁止しています。

これらの物質を使用している一部のEKKグループ製品については、お客様に適切な情報を提供するとともに、お客様と連携して代替化を検討しています。

フロン類の削減

EKKグループでは、精密部品の洗浄等にオゾン層破壊物質であるジクロロペンタフルオロプロパン(HCFC-225)を使用しています。

一部製品を対象とした代替化や、HCFC-225回収装置のメンテナンス頻度を上げることで、大気放出量の削減に取り

組んできました。その結果、2016年度のHCFC-225排出量は、統計を開始した2003年度対比で75.2%の削減となりました。

2020年度までの全廃に向け、専門メーカーと連携してHCFC-225の代替化を検討しています。

化学物質の管理

EKKグループでは、PRTR制度に従い、PRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関

する法律)で定める化学物質の排出量・移動量を国へ届け出しています。

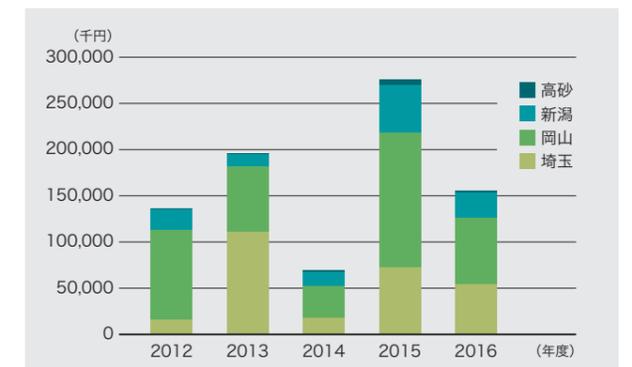
■PRTR法 第一種指定化学物質の排出・移動量

政令番号	第一種指定化学物質の名称	排出量(kg)				移動量(kg)	
		大気	公共用水域	事業所土壌	事業所埋立	下水道	事業所外
258	ヘキサメチレンテトラミン	0	0	0	0	0	750
300	トルエン	7,800	0	0	0	0	1,000
349	フェノール	0	0	0	0	0	500
	合計	7,800	0	0	0	0	2,250

2016年度の主な環境投資内容

- 埼玉事業場: 54,360千円 建屋内照明のLED化、エアコン更新、生活排水配管改修工事
- 岡山事業場: 71,783千円 雨水排水経路改善及び油水分離槽増設、中圧コンプレッサーインバーター機導入、エアコン更新
- 新潟事業場: 27,157千円 冷温水発生機更新、汚水槽清掃工事、フロン定期点検
- 高砂事業場: 1,950千円 電動フォークリフトへの切替
- 全社: 155,250千円

■環境投資実績



環境報告

環境目的・目標と実績

2016年度は、下表の全ての指標において目標を達成しました。エネルギーの使用については、原単位を前年度対比1%減という省エネ法の要求事項に対して、前年度対比1.6%の削減となりました。産業廃棄物については、リサイクル率98%という目標に対して、99.1%との結果になりました。EKKグループに適用される法規制を全て順守しました。

2017年度より、生物多様性へ配慮し、水資源保護への取

り組み、植栽管理への取り組みを始めます。また、2017年度は、今後、生産活動で発生する環境負荷を継続的に低減するために、CO₂排出量削減・産業廃棄物削減・生物多様性保全への取り組みという3本柱について、中期の環境目標を設定します。

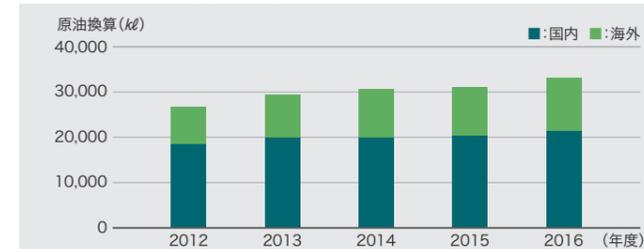
2018年度、2019年度は、2017年度に決定した方針に基づき、具体的な取り組みを始めます。

環境目的	2016年度 実績	評価	2017年度 環境目標	2018~2019年度 環境目標
CO ₂ 排出量削減への取り組み	環境配慮型製品の開発推進	○	環境配慮型製品の開発推進	環境配慮型製品の開発推進
	エネルギー使用量削減	○	1. 使用エネルギーの見える化 2. CO ₂ 排出量算出方法のルール化 3. 中期計画目標値の決定 4. 原油換算原単位を前年度対比1%削減	中期計画による推進
産業廃棄物削減への取り組み	リサイクル品目の拡大	○	1. 資源循環の見える化 2. 中期計画目標値の決定 3. リサイクル率98%の維持継続 4. 産業廃棄物量の削減	中期計画による推進
	産業廃棄物量の削減			
生物多様性保全への取り組み	水資源保護への取り組み	○	1. 水使用量、排水量の見える化 2. 中期計画目標値の決定	中期計画による推進
	適切な植栽管理			
法規制及びその他要求事項の順守	順守率100%	○	順守率100%	順守率100%

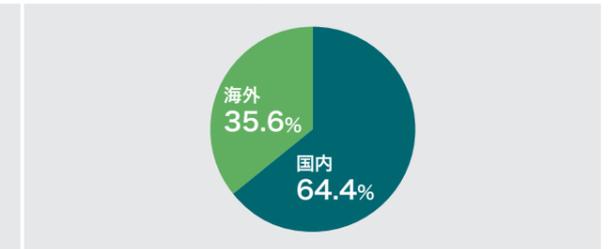
環境報告

環境データ

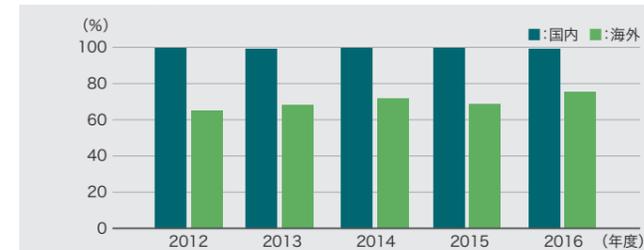
■エネルギー使用量の推移



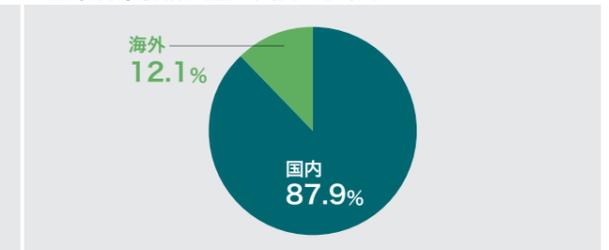
■エネルギー使用量の国内・海外比 (2016年度)



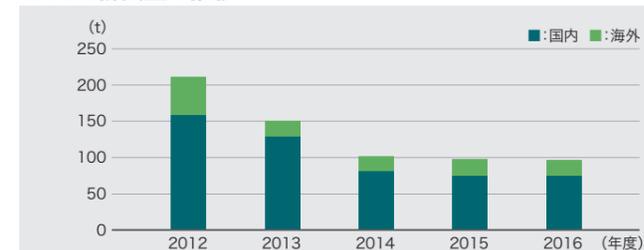
■リサイクル率の推移



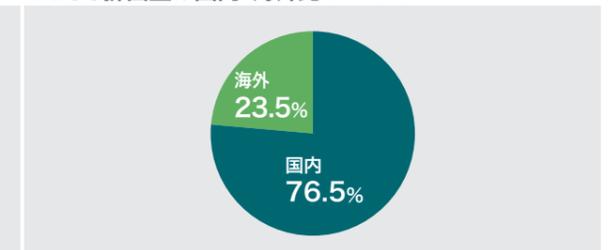
■産業廃棄物排出量の国内・海外比 (2016年度)



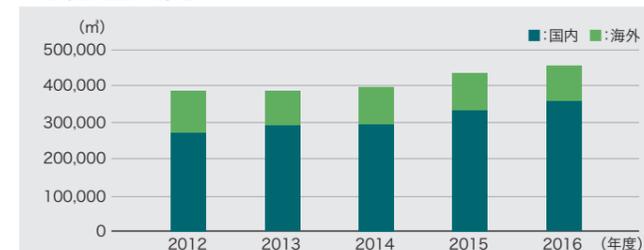
■VOC排出量の推移



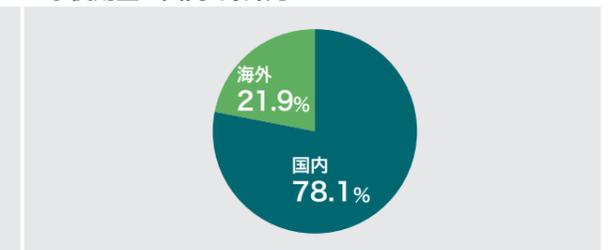
■VOC排出量の国内・海外比 (2016年度)



■水使用量の推移



■水使用量の国内・海外比 (2016年度)



環境データの集計対象

■エネルギー使用量、VOC排出量、水使用量

拠点	2012	2013	2014	2015	2016
国内	本社屋	1	1	1	1
	生産拠点	12	11	11	11
	営業部門	15	15	16	16
海外	8	8	9	9	9

■リサイクル率、産業廃棄物排出量

拠点	2012	2013	2014	2015	2016
国内	11	10	10	10	10
海外	8	8	9	9	9

Social Report

社会性報告

品質への取り組み

お客様の視点に立って世の中に信頼される品質を提供し続けていくことは、EKKグループの使命であると位置付けています。そのため、「永遠のゼロ」という強固な信念のもと、グループ一丸となって品質のあくなき改善・向上に取り組んでいます。

「永遠のゼロ」への取り組み

2015年10月の社長示達「永遠のゼロ」を受け、一個たりとも市場に不適合品を流出させない品質管理体制の構築に向けてEKKグループをあげて取り組んでいます。

真のグローバル企業を目指すEKKグループにとって、固有技術、海外移管品目、生産方式、設計プロセス等において、品質レベルをさらに向上させるべく、世界同一品質は必要不可欠です。

製造条件等のあるべき姿の明確化や、情報共有のための仕組みづくりに取り組んでいます。

「品質意識」「お客様志向」をEKKのDNAとするべく、製造部署や品質管理部署だけでなく、全従業員を対象とした体系的な品質教育にも着手していきます。

2016年度の主な取り組み

2016年度は、EKKが考える品質である「源流品質～製造品質～市場品質～世界品質」の各エリアでの品質情報が共有されているかを主眼に取り組みました。「永遠のゼロ」へ向けた継続的な改善へ次年度以降も取り組んでいます。

■EKKグループが取り組むべき品質エリア



工場ごとの品質情報の共有

品質情報を報告・討議する会議体として、工場の各部署の責任者が集まる「品質会議」を毎月開催し、情報の共有を図り、改善活動へ結びつけています。



EKKグループ間での品質情報の共有

国内の品質管理責任者(工場・営業・技術)が集まる「品質責任者会議」を半年ごとに開催し、また、海外の品質管理責任者が集まる会議として、前述の「品質責任者会議」の内の1回を「品質責任者国際会議」として開催して、情報の共有を図っています。

その他の品質情報の共有例

従業員が取り組んでいる品質向上活動「QCサークル活動」の成果発表の場として、各工場の予選を勝ち抜いた海外チームも含めた工場代表による「QCサークル大会」を年1回開催しています。この活動は、「品質意識」の醸成にも結び付いています。

My CSR



Eagle Industry Sales (Shanghai) Co., Ltd.
営業部 営業主査
和泉 朝久

世界最大の自動車及び建設機械生産国の中国でメカニカルシールやリップシール、フローティングシール、機器製品、アキュムレータ等の拡販を行うことで、油やフロンガス等の冷媒の漏れ防止、低燃費に貢献して環境保全にも貢献していきたいと思っております。

社会性報告

安全衛生・健康増進への取り組み

朝、家族のために働きに出かけたが、大怪我をして帰って来たとしたら、従業員とその家族を幸せにするという最大の経営目標は決して達成できません。従業員のために安全で健康的な職場環境の整備に取り組んでいます。

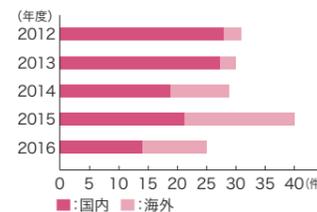
労働安全衛生の管理体制

EKKグループでは「安全衛生方針」を定めるとともに、各事業場では事業場長が総括安全衛生管理者となり、各部門長を通じてライン管理と安全衛生専任部署のスタッフ部門とが連携する「ライン-スタッフ型」安全衛生管理組織を設け、かつOHSAS18001の考え方を導入し、安全衛生活動を推進しています。これと本社安全健康推進部が有機的に連携することで、全社レベルでの安全衛生活動に取り組んでいます。

国内外労働災害発生防止対策

労働災害は不安全状態(設備の安全装置欠如等)や不安全行動(人の行動)によって発生するといわれるため、不安全状態の排除策として新規設備・機械の点検パトロールを行い、また不安全行動の抑制策として、不安全行動から生じる危険状態を体感できる複合設備を2012年より導入しています。荷振れによる挟まれ災害や電気災害等、想定される危険を数多く体感できるよう内容を充実させ、通常作業時のヒヤリハットや危険予知訓練の底上げと、リスクアセスメントの充実を図っています。危険体感複合機による教育は国内事業場では2013年度でほぼ完了したため、国内の新入社員および2014年度から海外従業員向けに教育を行い、国内外で労働災害発生防止に努めています。

■労働災害発生件数の推移



労働災害の内訳(2016年度)



※重大：休業4日以上災害
休業労災：休業1日～3日の災害
不働労災：病院での治療を行うが休業には至らない労災

■危険体感複合機受講者数(2016年度:2017年3月末時点)

事業場	受講者数(延べ人員)
埼玉事業場	15
Eagle Industry Taiwan Corporation	338
EagleBurgmann Taiwan Co., Ltd.	
イーグルハイキャスト(株)	13
岡山イーグル(株)	97
NOK株関連会社	64
合計	527

心と体の健康

EKKグループでは、従業員の心身の健康維持・増進を図るため、24時間電話健康相談サービス(無料)を実施しています。また、産業医、保健師、看護師、管理職が共同して従業員のメンタルヘルスケアに取り組む等、心身の健康管理を積極的にサポートしています。

■電話健康相談の実績(2016年度)

相談内容	件数
健診・ドックに関する相談	11
健康保持・増進に関する相談	7
気になる体の症状についての相談	270
家庭看護	70
治療に関する相談	228
母子保健に関する相談	3
育児相談	60
夜間・休日の医療機関の案内	20
ストレス及びメンタルヘルスに関する相談	180
医療機関の相談	15
その他	73
合計	937

※上記件数は、NOK、EKKグループの合計

交通安全の取り組み

EKKグループでは、交通安全教育の一環として交通安全運動を実施しています。また、無事故・無違反の従業員に対しては、5カ年ごとに表彰しています。

交通事故や交通違反を犯した従業員には、その運転が業務上か私用かを問わず「事故報告書」または「違反届」を提出してもらい、職場ごとに自戒を促し、再発防止に努めています。

主な安全関係の設備投資・法定点検費用

2016年度の主な投資内容(修繕含む/計97,000千円)	
(1) 埼玉事業場(15,129千円)	● 作業環境測定
● 屋外消火栓水槽・ポンプ更新	● エンジンフォークパトライト取付
● 消防設備法定点検・修繕	
(2) 岡山事業場(67,853千円)	● 鋳造棟内安全柵追加設置
● メスカット仕上げ機安全対策	● 切削加工工程職場環境改善(ミストコレクター)
(3) KEMELカンパニー(7,254千円)	● ジブクレーンフラッシュライト取付
● ヒヤリハット対策	● 分煙化対策
(4) イーグルブルグマンジャパン(株)新潟事業場(6,764千円)	● 各種年次点検
● LPG供給設備更新	



「安全衛生方針」については、イーグル工業株式会社ホームページでご紹介しています。
<https://www.ekkeagle.com/jp/csr/safe.html>

My CSR



イーグル工業(株)
水戸支店 営業課
梅井 淳平

日々の仕事が「環境汚染防止」につながるという意識を持って受注活動しています。各種プラントで使用される回転機器用のシール・カップリング製品の販売で、有害物質の大気漏えい減少・省エネルギー化に貢献しています。

社会性報告

地域とともに

EKKグループは、地域に信頼される企業市民であることを目指して、地域社会活動を継続的に実施しています。従業員がこれらの活動の主体となることで、地域社会とのコミュニケーションを一層深めています。

イーグルブルグマンジャパン(株) 新潟事業場 操業以来初の夏祭り

2016年7月30日、「従業員とその家族が楽しめる夏祭り!」をスローガンに1989年の新潟事業場操業以来初となる夏祭りを開催し、地元高校生による吹奏楽の演奏や各部門による模擬店、女装コンテスト、くじ引き抽選会などが催されました。模擬店では、お祭りでお馴染みの焼きそばや唐揚げ、ヨーヨー釣りなどが出店されました。女装コンテストでは女性社員の協力のもと各部門代表の男性社員が見事なメイクアップで非常にクオリティの高いコンテストとなりました。その他にもパルーンアーティストによるパフォーマンスや、社長・副会長を含む部長会メンバーによるダンスなど普段は見る事ができない光景で非常に盛り上がりました。



口コミや周辺地域へのPRの結果、なんと1,000人を超える方々に来場していただきました。初開催ということもあり不慣れな点などがありましたが、これらの点を改善し地域の恒例行事となっていけばと思います。

イーグルハイキャスト(株) 秋祭りで血圧測定を実施



2016年10月、イーグルハイキャスト(株)では、地域住民、従業員とその家族を対象に、第2回秋祭りを開催しました。

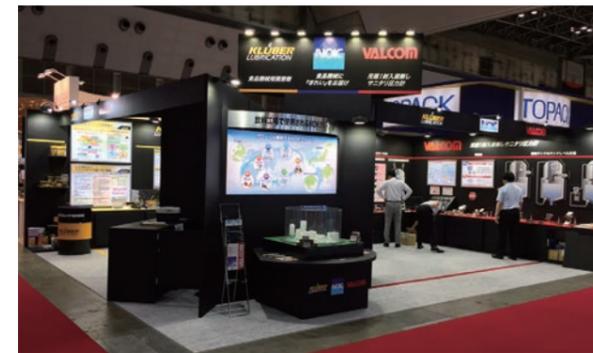
今回は焼きそばや唐揚げ、飲み物などの食事コーナーに加えて、EKK安全健康推進部の笹川保健師による血圧測定と健康・禁煙相談コーナーが設けられました。地域住民の方も血圧測定を受けた上でのアドバイスを健康維持の参考にされていました。禁煙相談コーナーでは、保健師と社員のブルーリボン運動による禁煙のススメが、血圧測定とあわせて行われ健康の啓蒙活動になりました。

社会性報告

お客様・お取引先様とともに

EKKグループは、サプライチェーンを構成するお取引様との相互信頼に基づくパートナーシップを確立し、お客様視点に立った製品・サービスをお届けしていくことで、社会から求められ、信頼される品質づくりに努めています。

お客様に“安全・安心”をお届けするために～(株)バルコムとの取り組み



NOK(株)、NOKクリューバー(株)との共同出展。食品の製造プロセスごとに、わかりやすく製品を展示しました

(株)バルコムでは、各種圧力センサを製造しています。圧力センサは、商品の製造工程を制御し、安定した品質を保つために欠かせないものです。中でも“封入液の入っていないサンタリ式圧力センサ”は、食品製造機械・装置に数多く採用され、皆さんが愛飲されている商品の品質維持に大きく貢献しています。当社は、より多くのお客様に“安全・安心”をお届けするために、毎年、「国際食品工業展(FOOMA JAPAN)」に出展し、当社の技術を紹介しています。

品質向上とコスト削減でお客様に貢献～EKK Eagle Industry Mexico S. A. de C. V.(EIM)の取り組み

EIMでは、お客様から信頼される品質を提供することはもちろん、コストの削減にも取り組んでいます。JATCO Mexico, S.A. de C.V.(ジャトコメキシコ社)へソレノイドバルブを供給してから約2年の間、クレームゼロである実績と、一部の輸入部品を内製化したことでコストを削減した実績が評価され、該社より、「品質賞」と「ベストパフォーマンス賞」を受賞しました。今後も、品質とコストの両面からお客様に貢献していきます。



(左)EIM 後藤社長
(右)JATCO Mexico,S.A. de C.V. 吉野社長

学会への支援を通じた船用業界への貢献～EKK船用事業部の取り組み



(左から)EKK船用事業部 佐田さん、松岡部長、齋藤さん

船の安全・快適な航行を支えるため、また海水を環境汚染から守るために欠かせない船尾管シール・軸受を製造・販売しています。船用業界に幅広く貢献するため、船用機関・機器に関して学術的な調査や研究を推進している公益社団法人日本マリンエンジニアリング学会において、課題解決に向けた活動への参加や技術者への教育も積極的に行っています。このような活動が評価され、当学会より「貢献賞」を受賞しました。

CSR Management

経営体制

CSRマネジメント

社会から信頼され、企業価値を継続的に向上していく企業であるために、公正で効率的な経営システムを構築し、誠実な運営に努めています。

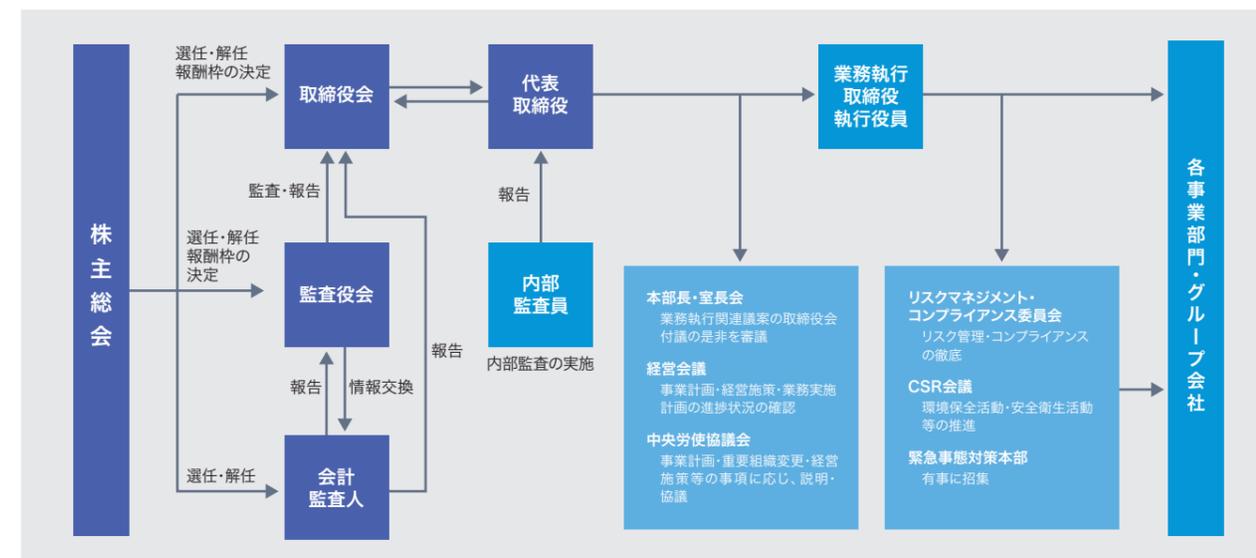
コーポレートガバナンス

EKKでは経営の意思決定をただちに実行に移せるよう常に組織の見直しを行うとともに、大幅な権限委譲と責任の明確化を図り、最大の成果を達成しうる体制の整備に努めています。特に経営会議をはじめとする各種会議には、その重要性に応じ監査役、ユニオンの参加を得ることで経営の透明性を保っています。さらに経営トップによる本部・事業部診断では経営層レベルにおける問題点の把握と共通認識が図れる体

制をとっています。

また、企業活動の多様化、グローバル化等に伴い企業としてのリスク管理の重要性が増していることから、リスクマネジメント・コンプライアンス委員会を設置し有事の備えとしています。加えて、全従業員を対象とした行動規範を策定し、モラルの向上を図っています。

■コーポレートガバナンス体制 (2017年4月1日現在)



リスクマネジメント

事業活動に潜むリスクを認知し、その顕在化を防止するとともに、緊急事態発生時の対応を定めるため、EKKは2003年に「リスクマネジメント方針」および「リスクマネジメント規程」を制定しました。

各本部・事業部および各関係会社は、「リスクマネジメント方針」に基づき、企業倫理、法令順守の徹底およびリスクマネジメントの推進に努めるとともに、これらの活動を通じてより高い企業倫理の醸成を図っています。

■リスクマネジメントの運用体制

リスクマネジメント・コンプライアンス委員会

事業活動に潜在するリスクを抽出・評価して、組織的認識のもと、予防策の推進を図ります。

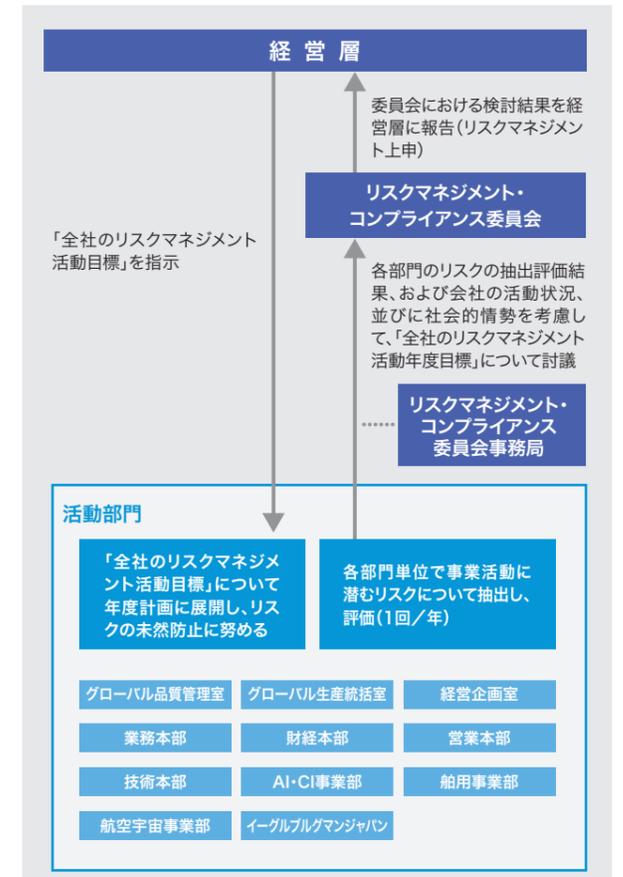
緊急事態対策本部

緊急事態が発生した場合、総力を挙げて緊急に状況の早期把握に努めるとともに、迅速・的確な状況判断のもとに、初動体制を確立し、被害の拡大防止を図ります。

倫理相談窓口

従業員から寄せられる倫理疑義事項(法令、業界のルール、社会規範に照らした疑問事項等)に関する相談の解決と、適切な企業行動の維持を図ります。この相談窓口は、社外からの強制的な摘発、従業員等内部者による外部機関への告発、あるいは外部からの批判によってではなく、会社組織自らの力で、従業員の協力を得ながら、不公正な商慣習、違法行為、問題ある取引慣行等を事前に発見し、主体的に解決するための「自浄制度」です。

■リスクマネジメント体制



中期経営計画

「持続性ある企業体質の構築 - Fly Sky High!」

前中期経営計画の取り組み結果

前3カ年計画では、「持続性ある成長への基礎固め」を目指し、成長への基礎固めとなる計画の中核については着実に進捗し、一定の成果が得られました。

しかし、数値目標については未達となりました。計画の初年度は外部環境の後押しもあり、順調な滑り出しでしたが、2年

目の半ばには中国経済の減速が顕著になり、加えて乱高下する為替動向、シェールガス革命とその影響を受けた原油価格の暴落、造船不況による船用事業の景況悪化などが重なり、残念ながら当初計画の数値目標は未達となりました。

新3カ年計画のスタート

2017年度は、2019年度を最終年度とする新3カ年計画のスタートの年です。この3カ年計画終了の年の翌年2020年度の売上高目標2020億円を実現するための重要な位置づけとなります。そのうえで、テーマは「持続性ある企業体質の構築 - Fly Sky High!」とし、「永遠のゼロ」「次世代商品開発」「徹

底したTCD、ムダ半」「BCM」「EagleBurgmann三極全体最適経営」「ERP導入/活用」「人間尊重経営/健康・安全」の7項目を重点的に推進してまいります。

ここに掲げた重点実施項目は、どれも先送りできるものではありません。なぜなら、それらが長期的利益の犠牲のもとに短期的利益を追求しないという当社グループの命題に沿うものであり、「全てのステークホルダーに利益と誇りをもたらず(Profit and Pride for All Stakeholders)」と信じているからです。

■主要推進項目

- 永遠のゼロ
- 次世代商品開発
- 徹底したTCD、ムダ半
- BCM
- EagleBurgmann三極全体最適経営
- ERP導入/活用
- 人間尊重経営/健康・安全

■目標経営数値

2014 (実績)	2015 (実績)	2016 (実績)	2017 (見直し)	2018 (見直し)	2019 (見直し)
売上高 1,382億円	売上高 1,434億円	売上高 1,406億円	売上高 1,450億円	売上高 1,600億円	売上高 1,800億円
営業利益 144億円	営業利益 140億円	営業利益 111億円	営業利益 115億円	営業利益 135億円	営業利益 180億円

コンプライアンス

コンプライアンスの考え方

当社は、「EKK企業行動憲章」において、すべての利害関係者、すなわち、ステークホルダーに誇りをもってもらい、共に夢を追い続けることのできる経営を推進し、広く社会にとって有用な存在となることを目指し、その実現のための企業行動原則10項目を定めています。この企業行動憲章を基本方針とした「コンプライアンス規程」を制定し、その内容を具体

的に示すガイドラインとして、EKK従業員（人材派遣社員・業務請負社員を含む）が一般的に順守しなければならない事項を、「EKK従業員コンプライアンス行動指針」として以下の通り定めています。国内・海外グループ会社では本方針に準拠した方針を定め、従業員は順守しなければならないこととしています。

EKK従業員コンプライアンス行動指針

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 倫理の心 | 8. 環境保全 |
| 2. 人間尊重、差別・ハラスメントの禁止 | 9. 有用な製品の提供 |
| 3. 公正・適正な取引 | 10. 情報の適切な管理 |
| 4. インサイダー取引規制 | 11. 会社の利益を損う行為等の禁止 |
| 5. 輸出入手続(安全保障貿易管理) | 12. 適正な会計 |
| 6. 知的財産権関連法 | 13. 正確な報告 |
| 7. 反社会的勢力との関係遮断 | 14. 法令順守、及び法令等違反の連絡 |

コンプライアンスとは「法令等の順守」と定義付け、不順守はリスクの1つと考えリスクマネジメントと同様の運用体制を取っており、特に大きなリスクとなるもの(独占禁止法の抵触、贈収賄等)については、毎年「リスクマネジメント目標」の1つとして定め、活動しています。

また、コンプライアンスについての意識向上・教育実施状況等について内部監査で確認するとともに、違反行為についての連絡先として案件ごとの管轄部門を定め、さらには「内部通報窓口」を設置し、社内受付部門(本社総務部)のほかに外部弁護士を加えており、電話、電子メールでの受付のできる体制を取っています。

コンプライアンス教育

コンプライアンスの従業員への周知と意識を高めるための教育を国内外で継続的に実施しています。



「コンプライアンス入門」第2版

●国内

「コンプライアンス入門」第2版を展開しました。グループ全ての従業員に配付し、それを教材として各拠点で教育を実施しています。「企業行動憲章」をはじめ、「従業員コンプライアンス行動指針」を掲載し、「コンプライアンスとは何か」や具体例について説明しています。また、コンプライアンスに関する相談窓口、内部通報窓口についても明示しています。

●海外

「コンプライアンス入門」第2版英文版を全ての拠点に配付。海外各拠点での教材として生かしてもらおうようにしています。

「独占禁止法違反防止規程」、「贈収賄防止規程」を施行、それぞれのガイドラインを作成しました。

EKKは「企業行動憲章」や「従業員コンプライアンス行動指針」において、公正・適正な取引をすることを明示しています。しかし、経済情勢の高度化、違反に対する対応の厳格化・リスクの高まりに対応するために、2016年4月に「独占禁止法違反防止規程」、「贈収賄防止規程」を制定・施行するとともに、ガイドラインを作成しました。

国内で教育を行うとともに、海外の各拠点で、規程・ガイドラインに沿って業務を行い、各国地域の事情を考慮しながらリスクを管理・対応するために、海外各拠点に出向き教育を実施しています。



贈収賄防止の教育の様子

EKKグループ 海外での取り組み

EKKグループでは、海外の各拠点においてもCSR活動を推進しています。その取り組みの一部を紹介します。

P.T. Eagle Industry Indonesia(インドネシア)

EJIP(東ジャカルタ工業団地)緑化活動

2017年1月に“EJIP Go Green”と呼ばれる緑化活動に参加し、第1ステップとしてチカラン川沿いの北西区域に500種類の木を植えました。次のステップとして別の場所でも活動を継続します。



労働安全衛生・環境の担当者(Wanharさん)とEJIP居住民全員が緑化活動をサポートしています

消火訓練

2016年8月、年間プログラムとして、火災の緊急時に備え、EJIP消火隊と協力し、総勢29名が参加してシミュレーションと訓練を行いました。



消火訓練の様子

洪水被害への寄付

2016年9月末、ジャワ島に位置する西ジャワ州のガルットで、豪雨により洪水、崖崩れが起きました。ガルットには当社の従業員数名が住んでいるため、当社では寄付を集め、2016年10月、ガルットのチマチャン村にあるタロンゴン キドゥルに直接持参しました。



当社からSadiahさん、Emiliaさん、Nentiさんが訪れ、ガルット地域の事務所にある地域災害管理局(BPBD)が当社からの寄付を受け取ったことを報告しました

消火競技

2016年9月、EJIPにある他の会社の消火隊とともに消火競技に参加しました。当社消火チームは、EJIPから参加した30社の中でトップ10に入りました。



競技に参加した皆さん

Eagle Industry(Wuxi)Co., Ltd.(中国)

「工業排水ゼロ」の取り組みが中国政府から評価 —無錫市環境保護局から環境保護奨励補助金を受賞—

当社は、中国でも環境規制が非常に厳しい無錫市太湖近郊に位置します。地域法令により、リン、窒素を含む工業排水が禁止され、種々の処理方法を検討した結果「化学(加圧浮上)+物理(膜浄化)」システムを採用し、工業排水の「99%リサイクル」と「排水ゼロ」を実現させました。

この取り組みに対し、無錫市環境保護局より、民間企業としては唯一、「環境保護奨励補助金」を受賞しました。日々、厳しくなる環境政策に対し、順法の精神とそれに携わった関係者の努力で、水の大量使用を抑制し環境汚染物質を含有する工業排水ゼロを実現したことが、環境保護の精神、技術性、経済性の観点から評価され、栄誉ある受賞となりました。



「化学(加圧浮上)+物理(膜浄化)」システム



担当者の業務部 安全環境課 課長 謝国君さん

EKK Eagle Industry Mexico S.A. de C.V. (メキシコ)

従業員やそのご家族とのかかわり

毎月、従業員の誕生日会を開いています。この会には、その月に誕生日を迎える従業員と、社長、工場長、職長、直属の上司が参加し、誕生日ケーキでお祝いをします(写真①)。

また、メキシコの将来を担う、従業員の子供たちのことを大切に考えています。毎年、小学生から大学生までの従業員の子供たちの中で、1年間の平均点が優れている学力優秀者を表彰しています(写真②)。



写真①: この活動を通じて、会社全体に一体感が生まれています



写真②: 2016年度は19名を表彰しました

地域支援

当社が所在するサン・ルイス・ポシ市のビージャ・デ・レジェス地域は非常に貧しい地域です。当社は、真に社会に責任を負う会社として、毎年12月に、市役所と共にビージャ・デ・レジェス地域へ毛布と食料を寄付しています。



2016年度は、50家庭に寄付しました

日本と世界に広がるEKKグループ

国内

販売拠点	事業場・主要拠点	グループ会社
● 仙台支店	● KEMEL 東京支店	● イーグルブルグマンジャパン株式会社
● 北関東支店	● KEMEL 神戸支店	● 北海道イーグル株式会社
● 水戸支店	● KEMEL 広島支店	● 株式会社バルコム
● 東京支店	● 埼玉事業場 航空宇宙事業部 技術本部	● 岡山イーグル株式会社
● 名古屋支店	● 岡山事業場 AI・CI事業部	● 島根イーグル株式会社
● 大阪支店	● 高砂事業場 船用事業部	● 広島イーグル株式会社
● 神戸支店	● 呉事業場 船用事業部	● イーグルサービス株式会社
● 広島支店	● 新潟事業場 船用事業部	● イーグルハイキャスト株式会社
● 九州支店		



イーグル工業株式会社 埼玉事業場 | イーグル工業株式会社 岡山事業場 | イーグル工業株式会社 高砂事業場 | イーグルブルグマンジャパン株式会社 新潟事業場 | 島根イーグル株式会社 | 北海道イーグル株式会社

海外(グループ会社)

生産および販売拠点(32社)	販売拠点(46社)	その他(15社)
自動車・建設機械業界向け事業 ■ Eagle Industry Taiwan Corporation(台湾) ■ NEK Co., Ltd.(韓国) ■ EKK Eagle (Thailand) Co., Ltd.(タイ) ■ Eagle Industry (Wuxi) Co., Ltd.(中国) ■ Eagle Simrax B.V.(オランダ) ■ Eagle Industry France S.A.S.(フランス) ■ EKK Eagle Industry Mexico S.A. de C.V.(メキシコ) ■ Eagle Industry Hungary Kft.(ハンガリー) その他5社 一般産業機械業界向け事業 ■ EagleBurgmann India Pvt. Ltd.(インド) ■ EagleBurgmann Australasia Pty. Ltd.(オーストラリア) ■ P.T. EagleBurgmann Indonesia(インドネシア) ■ EagleBurgmann Germany GmbH & Co. KG(ドイツ) その他14社 船用業界向け事業 ■ Eagle Materials Korea Co., Ltd.(韓国)	自動車・建設機械業界向け事業 ■ EKK Sales Europe B.V.(オランダ) ■ Eagle Industry Sales (Shanghai) Co., Ltd.(中国) ■ Eagle Actuator Components GmbH & Co. KG(ドイツ) その他2社 一般産業機械業界向け事業 ■ EagleBurgmann France S.A.S.(フランス) ■ EagleBurgmann Italia s.r.l.(イタリア) その他32社 船用業界向け事業 ■ KEMEL EUROPE LIMITED(英国) ■ KEMEL USA Inc.(米国) ■ KEMEL Asia Pacific Pte. Ltd.(シンガポール) その他1社 航空宇宙・光工業業界向け事業 ■ Eagle Engineering Aerospace Singapore Pte. Ltd.(シンガポール) その他2社	自動車・建設機械業界向け事業 ■ EKK Inc.(米国) その他4社 一般産業機械業界向け事業 ■ EBI Asia Pacific Pte. Ltd.(シンガポール) ■ EBI Atlantic A/S(デンマーク) ■ EBI Asia Pte. Ltd.(シンガポール) ■ EBI Middle East A/S(デンマーク) その他6社



Eagle Industry Hungary Kft. (ハンガリー) | EKK Eagle (Thailand) Co., Ltd. (タイ) | Eagle Industry France S.A.S. (フランス) | EagleBurgmann Australasia Pty. Ltd. (オーストラリア)

■: 連結子会社 ■: 持分法適用会社



イーグル工業株式会社

〒105-8587 東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビル
<https://www.ekkeagle.com/jp/>

